

エリスマン邸

先

月のベリック・ホールに続き、
今月は横浜山手西洋館のひとつで
ある「エリスマン邸」を紹介する。

エリスマン邸は、生糸貿易商社の横浜
支配人格として活躍したスイス生まれの
フリッツ・エリスマン氏の邸宅として、
大正15年（1926年）に当時の山手町
127番地に建てられた。

その後、昭和57年（1982年）にマ
ンション建築のため解体され、現在の建
物は平成2年（1990年）に元町公園
内の現地に再現されたものである。

設計したのは、日本の建築界に大きな
影響を与え「近代建築の父」といわれる
チェコ人の建築家アントニン・レーモン
ド。レーモンドは、近代建築の三大巨匠



サンルームの照明は建築当時のもの

大きな上げ下げ窓や外の風景を取り込んだ
1階の居間兼食堂

のひとりである
フランク・ロイ
ド・ライトの弟
子としても知ら
れる。エリスマ
ン邸にも、軒の水平線の強調などに師匠
の影響が見られる。

創建当時は木造2階建て、和館付き
で、屋根はスレート（粘板岩製の屋根材）
葺、外壁は2階が下見板張り（横長の板
材を階段状に重ねた外壁仕上げ）、1階
が堅羽目張り（板を縦に連続して張った
外壁仕上げ）で仕上げられていた。和館
は省略されたが、建物はよく再現されて
いるという。

建物内部の1階には暖炉のある応接



室、居間兼食堂、庭を眺めるサンルーム
などが当時の趣を残して再現されてい
る。創建当時のものが残されていた照明
などは、再利用されている。各部屋に設
置されている椅子やテーブルなどの家具
も、レーモンドが設計したものを忠実に
再現しているという。

3つの寝室があった2階は、山手の洋
館に関する資料室として、創建時は厨房
だったスペースは、喫茶室「カフェエリ
スマン」として利用されている。



DATA

名 称 エリスマン邸
所在地 横浜市中区元町1-77-4
完 成 大正15年
設計者 アントニン・レーモンド



1階応接間。窓下棚、真鍮釘頭を意図的に見せた装飾など、機能美を追求したシンプルモダンなデザインが随所に見られる



階段手すりのデザインも美しい